

3. 2014年度 初等カリキュラム開発講座 教員活動状況報告

朝倉 淳 (教授)

1. 論文等

「生活科・総合的学習実践研究の課題と展望」, 日本生活科・総合的学習教育学会編『生活科・総合の実践ブックレット』第8号, 2014年6月, pp. 4-13。

「生活科で人類の未来を展望するー専門性・総合性・物語性という視点ー」広島大学附属小学校学校教育研究会『学校教育』No. 1166, 2014年10月, pp. 22-29。ほか。

2. 社会貢献等

日本生活科・総合的学習教育学会 常任理事 研究企画部長

日本NIE学会 常任理事

日本教育大学協会 生活科・総合的な学習部門 代表

国立教育政策研究所 スタートカリキュラム編成指導事例集の作成に関する協力者会議 委員

日本教育公務員弘済会広島支部 教育研究物審査委員会 委員長 ほか。

伊藤 圭子 (教授)

1. 論文

・家庭科における「つまずき」要因の構造ー大学生の学習経験をもとにー, 日本家庭科教育学会誌, 第57巻第4号, pp. 273-282

・「インクルーシブ家庭科」における実践的指導力向上のための現職教員研修への要請, 初等教育カリキュラム研究, 第3号, pp. 3-11

・小学校家庭科における食物選択支援ツールを用いた栄養教育の開発, 学校教育実践学研究, 第21巻, pp. 67-73

・小学校家庭科における保護者と連携した子どもの学習支援の検討ー支援ツールを用いた栄養教育を事例としてー, 初等教育カリキュラム研究, 第3号, pp. 61-67

2. 社会貢献等

・日本家庭科教育学会理事

植田 敦三 (教授)

1. 論文

・ Atsumi Ueda, Takuya Baba, Taketo Matsuura. Values in Japanese Mathematics Education from the Perspective of Open-Ended Approach. *Teaching Innovations*, 27(3). pp. 69-82.

2. 学会発表等

・全国数学教育学会 第41回研究発表会「全国数学教育学会, この10年の歩みと今後の展望」(シンポジスト)

・日本数学教育学会 第3回春期研究大会「歴史的観点から見たオープンエンドアプローチに内包される数学教育的価値観」, 創成型課題研究の部 (口頭発表)

3. 社会貢献等

・第96回全国算数・数学教育研究(鳥取)大会 講習会

・全国数学教育学会 会長

木原 成一郎 (教授)

今年度は「体育授業に関する教師の力量形成」を主なテーマとして研究を行った。著書として、編著『体育授業の目標と評価』広島大学出版会 2014年 pp. 1-160, pp. 219-226, pp. 238-254. 研究実績として、学術論文「教員養成課程の体育の授業科目におけるポートフォリオ活用に関する一考察」『体育科教育学研究』第30巻第2号, pp. 13-23. 共著, 「朝輝記太留(1878-1938)の「体育ダンス」に関する考察」『体育学研究』59巻2号, pp. 609-624. 共著, そして研究報告として, 「体育に教科書を導入するために」『体育科教育』第62巻, 第12号, p. 9. を公表した。学会発表では, 日本スポーツ教育学会第33回大会にて口頭発表「小学校における体育授業の力量形成に関する研究」を行った。

また, 科研費による「体育教師の継続的な力量形成を保障する現職教育プログラムの運用と改善」を行っている。社会貢献では, 平成26年度 広島県小学校教育研究会夏季体育実技研修会を企画, 実施した。また, 日本体育科教育学会理事長として学会運営に携わっている。

木村 博一 (教授)

1. 論文

- ・「これからの社会科教育で身につけさせたいことー『ここ』と『今』の認識を通して育成する自己理解と自立した精神ー」広島大学附属小学校学校教育研究会『学校教育』第1169号, pp. 14-21, 単著。
- ・「文化に焦点化した『グローバル社会学習』の授業開発ー附属小学校3校の連携を生かしてー」『広島大学学部・附属学校共同研究機構研究紀要』第43号, pp. 153-162, 共著。

2. 社会貢献等

- ・全国社会科教育学会 副会長
- ・日本社会科教育学会 評議員
- ・日本教科教育学会 常任理事
- ・日本グローバル教育学会 理事
- ・日本NIE学会 理事

権藤 敦子 (教授)

論文：ブータンのあそび歌 ツァンモとカプシューートンサとタシガンにおける調査からー, 民俗音楽研究第40号(共著)・音楽科の特性に応じた思考を育むカリキュラムの開発(Ⅲ)ー創造的思考の相互交流から音楽表現へー, 広島大学学部・附属学校共同研究機構研究紀要第43号(共著)・ブータン歌謡カプシューーの実際ータシガン・メラ村の場合ー, 新潟大学教育学部研究紀要第7巻第2号(共著)・歌唱における学習過程の再考ーブータン歌謡ツァンモの調査をてがかりにー, 初等教育カリキュラム研究第3号(共著)・ブータン歌謡ツァンモの実際ートンサ県ツァンカ村とタンシジ村の場合ー, 新潟大学教育学部研究紀要第7巻第1号(共著) 発表等：高野辰之と唱歌ー国語読本から唱歌教科書へー, 斑山文庫特別展(講演)・近代日本音楽教育史への問い, 音楽教育史学会第27回大会(パネリスト)・音楽学習過程と替えうたの関連性, 日本民俗音楽学会第9回民俗音楽研究会・掛け合い歌の教育学, 日本音楽教育学会第45回大会 社会貢献等：日本音楽教育学会常任理事/学会誌のあり方検討委員会委員長/広報委員長, 日本民俗音楽学会理事/調査研究委員

柴 一実 (教授)

1. 論文
 - ・「戦後理科教育改革関係資料の研究 (X)」『広島大学大学院教育学研究科紀要・第一部』第 63 号, pp. 49-58, 単著
2. 学会発表
 - ・第 64 回日本理科教育学会全国大会, 「戦後における理科教育の革新 (14)」, 口頭発表
3. 社会貢献等
 - ・日本理科教育学会『理科教育学研究』編集委員会委員

難波 博孝 (教授)

1. 著書
 - 『ことばの授業づくりハンドブック—特別支援教育と国語教育をつなぐ』(原田大介と共編著) 209 頁 溪水社
2. 論文
 - 「評論文読解指導の現状と課題：高等学校教員に対するフォーカスグループインタビューから」『国語科教育』77 号 共著 70-77
 - 「国語教育としての実践研究」というあり方『国語教育研究』56 号 単著 179-192
 - 「国語科教育における実践研究の考え方と実際：「国語教育としての実践研究」というあり方」『言語文化教育研究』12 号 単著 29-48

松浦 武人 (教授)

1. 論文
 - ・「初等教育における確率概念の形成を意図した学習材の開発研究」, 広島大学学位 (博士) 論文, pp. 1-308, 単著
2. 報告書
 - ・「大学院生によるアメリカの小中学校での体験型海外教育実地研究Ⅷ」, 『学校教育実践学研究』第 21 巻, pp. 143-161, 共著
3. 社会貢献
 - ・全国数学教育学会 幹事長・事務局長
 - ・全国算数・数学教育研究大会講習会 (兼：免許更新講習) 講師
 - ・島根県算数・数学教育夏期研修会講師
 - ・理数教育研究所「算数・数学自由研究作品コンクール」審査委員 等

松本 仁志（教授）

1. 論文

- ・「筆記具の効果的使用をテーマとする書写教育研究の史的考察—課題と展望—」, (『書写書道教育研究』, 第 29 号・54-64 頁, 単著)

2. 社会貢献等

- ・講演会 (大阪・公文エルアイエル), 題目「最新の書写指導から学ぶ」, 関西地区指導者対象
- ・講演会 (岡山・公文エルアイエル), 題目「筆順のはなし」, 岡山地区指導者対象
- ・講演会 (広島・公文エルアイエル), 題目「筆順のはなし」, 広島地区指導者対象
- ・講演会 (福岡・日本習字), 題目「学校では何を教えているか」, 全国指導者対象
- ・全国大学書写書道教育学会・理事, 書学書道史学会・諮問委員, 中国地区大学書道学会・幹事, 全国書写書道教育研究会・副理事長, 日本教科教育学会・理事
- ・中学校用教科書『現代の国語』『現代の書写』(三省堂, 編集委員)

望月 てる代（教授）

1. 報告書

- ・「ミシン縫い技能」習得をめざした小学校家庭科における授業開発—ふりかえる活動と相互助言活動を用いて—, 『日本家庭科教育学会中国地区会共同研究報告書「生活実践力を育成する家庭科の授業開発」』 pp. 7-12, 共著

2. 学会発表

- ・小学生の調理用語に関する知識の実態, 日本家庭科教育学会第 57 回大会, 共同

3. 社会貢献等

- ・「作って！食べよう！弁当 DAY！～ひがしひろしま食材さがし～東広島市中学生弁当コンテスト」審査委員長

山崎 敬人（教授）

1. 論文等

- ・「小中学校における科学的な見方や考え方の育成のための課題とその評価に関する研究—地震災害を題材とした学習課題の開発を中心として—」, 広島大学学部・附属学校共同研究機構研究紀要, 第 43 巻, pp. 273-282, 共著
- ・「国際協力版「授業研究入門マニュアル」の開発 (2)」, 広島大学大学院教育学研究科共同研究プロジェクト報告書, 13 巻, pp. 113-120, 共著

2. 学会発表

- 「教師の理科授業に関する省察と力量形成—過去の授業ビデオ記録のモニタリングを通して—」, 日本理科教育学会第 64 回全国大会 (2014.8.24)

3. 社会貢献等

- 日本理科教育学会理事・評議員

池田 吏志 (准教授)

1. 論文

- ・「重度・重複障害児を対象とした造形活動のアクション・リサーチ —衝動・不随意運動型の児童生徒の造形活動における QOL 向上を目指して—」『美術教育学』第 36 号, pp. 13-26, 単著
- ・「重度・重複障害児の QOL 評価に関する文献レビュー」『広島大学大学院教育学研究科紀要』第一部第 63 号, pp. 59-66, 単著

2. 学会発表

- ・“Art Education for Children with Profound Intellectual and Multiple Disabilities”, 34th World Congress of the International Society for Education through Art, Melbourne Australia
- ・「重度・重複障害児の造形活動における授業改善の方策」, 第 37 回美術科教育学会上越大会

3. 社会貢献活動

- ・第 3 回広島県ジュニア美術展審査員 (広島県立美術館)

大後戸 一樹 (准教授)

1. 論文等

- ・「体育授業におけるタブレット型端末を活用したグループ練習の実態—グループ練習での学習者の気づきに焦点をあてて—」『学校教育実践学研究』第 21 巻, 共著
- ・「ボールゲームにおける技術指導の系統性誕生: 1970 年前後の攻防入り乱れ系ボールゲームの議論に焦点を当てて」『楽しい体育・スポーツ』第 33 巻 7 号, pp. 34 - 37, 単著

2. 社会貢献等

- ・第 17 回幼小中一貫教育研究会 (附属三原幼・小・中), 東雲教育研究会 (附属東雲小・中), 第 96 回研究発表協議会 (附属小) など
- ・日本体育科教育学会 庶務幹事
- ・第 148 回学校体育研究同志会全国研究大会フラッグフットボール分科会 基調提案「フラッグフットボールの実践課題を考える: 盛り込む作業と削ぎ落とす作業」

寺内 大輔 (准教授)

2014 年度は, 共著論文, 共著実践報告を各 1 本発表した。音楽表現活動では, 2006 年に制作・発表した演奏用インスタレーション作品《スコア・スクローラー》が広島市現代美術館で開催された企画「野村誠の音楽室」において展示された。また, 京都芸術センターで開催された音楽祭「Creative Music Festival 2014」においてサウンドインスタレーション作品《蛇口》を制作・発表した。演奏家として 3 つの演奏会に出演したほか, 詩の朗読イベント「選拔式 詩のボクシング全国大会 in 北海道」に全国選抜選手として出演した。学会では「日本音楽表現学会第 12 回 (まほろば) 大会」等で, アメリカの作曲家ジョン・ゾーンが考案した集団即興演奏のためのシステム《コブラ》に関する研究成果の口頭発表を行った。社会貢献では, 日本音楽即興学会理事長, 「Creative Music Festival 2014」オーガナイザー, 「第 31 回 中国ユース音楽コンクール」ピアノ部門予選審査員を務めた。また, 教諭を対象とした「音楽づくり指導」等のワークショップ, 児童を対象とした「音楽づくり」等のワークショップの講師をあわせて 6 件務めた。

中村 和世 (准教授)

1. 論文

- ・「これからの造形科教育で身につけさせたい資質や能力ーユネスコ及び米国の動向を踏まえてー」, 『学校教育』, 1164号, 14-21.
- ・「J. デューイのハーバード大学での美学講義に関する A. C. バーンズ関与の解明」, 『日本デューイ学会紀要』, 第55号, 45-54.
- ・「米国視覚芸術教育の新しいスタンダードの方向性」, 『教育美術』, 862号, 60-61
- ・「米国における視覚芸術教育の新しいナショナル・スタンダードの検討」, 『美術教育学研究』, 第47号, 223-230.

2. 社会貢献等

- ・第9回尾道市立小中学校芸術祭 図画美術コンクール審査委員
- ・第3回広島県ジュニア美術展審査委員
- ・広島県美術鑑賞教育プログラム普及事業実行委員

永田 忠道 (准教授)

1. 著書

- ・永田忠道・池野範男編『地域からの社会科の探究』日本文教出版社, 2014年12月, 280頁。

2. 論文

- ・永田忠道「市民性に関する国際比較研究の新たな可能性ー日本と韓国から社会認識カリキュラム再構成の多国間検討へー」『社会科教育論叢』第49集, 2015年3月, 11-22頁。
- ・植松希世子・永田忠道「初等教員養成におけるグローバルなもの見方と異文化間能力の必要性ーフィンランドと日本の比較研究ー」『初等教育カリキュラム研究』第3号, 2015年3月, 13-22頁。

3. 学会発表

- ・永田忠道「論理と感性の包摂による創造主義の社会科ー共感的理解と科学的説明の越境ー」日本教育方法学会第50回記念大会課題研究, 2014年10月12日, 広島大学。

松宮 奈賀子 (准教授)

1. 著書

- ・鈴木由美子編著, 蘆田智絵 他12名, 『小学校英語教育法入門』, 全253ページ, 担当189-210頁, 協同出版, 共著

2. 論文

- ・「小学校教員養成課程における「学級担任としての英語力」育成のためのスピーチ練習の効果」『小学校英語教育学会誌 JES Journal』, Vol. 15, 95-110頁, 査読有, 国内, 共著